

琉球大学学術リポジトリ

学級活動における養護教諭の行う保健指導の実践的研究(2) ー附属小学校におけるエイズ教育を通してー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践研究指導センター 公開日: 2008-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 昇, 宮里, 春江, 浅井, 利真, Kinjo, Noboru メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/7947

学級活動における養護教諭の行う保健指導の実践的研究 (2)

—附属小学校におけるエイズ教育を通して—

金城 昇* 宮里 春江** 浅井 利真**

(1993年6月30日受理)

本稿で対象とした実践は、「エイズ」を扱った授業としては先駆的な実践であり、多大な評価を受けている。この実践は、エイズ教育と性教育の狭間で必ず問題にあげられる「感染経路としての性交」を教育内容として、小学校段階に位置づけた点で興味ある実践である。本稿では、分析の視点を「感染経路としての性交」にしぼり検討を行った。

1 はじめに

それぞれの学校における子ども達健康課題は様々である。その健康課題への取り組み方もまた様々であるが多くは保健室における個別指導が主要であろう。ところが、問題によっては集団指導が必要な場合もある。この場合も保健だより・保健朝会・校内放送・学級指導などいろいろな方法が考えられる。さらに、学級活動における保健指導についても養護教諭自身の場合もあれば、養護教諭の働きかけによって担任教師が行なう場合もある。ところで、健康問題によっては緊急に養護教諭自身によって学級指導で扱いたい問題も多くある。しかしながら、実際には養護教諭の指導の場合、多くの学校においてそうであるように、あらかじめ年間計画やカリキュラムに組み込まれているわけではなく、学級担任を説得して、学級活動を活用したり、急な飛び込み的授業になりがちである。

したがって、授業実践が養護教諭自身による場合、学級担任による場合に関わりなく「教材

づくりとその蓄積」が必要となっている。近藤⁽¹⁾のいう「スタンダードナンバーづくり」がそれである。このスタンダードナンバーづくりの活動(教材研究、そのための学習会など)は、養護教諭自身が行なう保健指導に役立つだけでなく、TT方式実践、「学級担任・保健担当教師への支援、管理者への進言、父母への助言」など⁽²⁾、その他の様々な実践へと結びつく。本稿は、いつでも取り出せ、いつでも利用できる「教材スタンダードナンバー」づくりの一環としての授業分析の一部である。分析対象とした実践は1993年2月1日に本学附属小学校5年3組において行われた宮里・浅井実践である。本実践の特徴は、今「エイズ教育」で話題となっている「感染経路としての“性交”」を小学校段階に位置づけたことである。本稿の分析でもその点に焦点をあてた。

* 琉球大学教育学部(保健体育科)

** 琉球大学教育学部附属小学校

2 授業実践—学級活動における「エイズに関する指導」

学級活動学習指導案①

—エイズに関する指導—

平成4年11月22日(日)

5年3組 指導者 浅井利真・宮里春江

【題材名】 エイズの探険 ～エイズって、どんな病気?～

【題材設定の理由】

最近、社会問題としてクローズアップされてきた「AIDS(エイズ)」は、子どもたちにとって、勉強したいと思っている病気のひとつであることがアンケートからわかった。

また、全国的にも、エイズ患者が若年化し、社会不安を増大させている。このような状況の中で、社会を担っていく子ども達が、心豊かに健康な生活を築いていけるためのエイズに関する指導の重要性が叫ばれている。

そこで、エイズの正しい知識を授け、患者・感染者への正しい理解を深めることができる子を育てるために、本題材を設定した。

【指導計画】

第一次「エイズ」ってどんな病気?…本時

第二次「エイズ」のうつりかた…次時

【本時の学習】

(1) 目標

- ① エイズについての知識、感染経路、及び予防法を理解させることにより、健康な生活習慣の大切さを知り、積極的に実践しようとする態度を育てる。
- ② エイズ患者に対する理解を深め、差別・偏見を持たないようにする。

(2) 授業仮説

「エイズの学習」において、病気の感染経路・症状・予防法等を視覚に訴え、話し合うことにより、健康な生活習慣の実践意欲や、差別・偏見をもたない子が育つであろう。

(3) 展開

	指導者	時間	学習内容・活動	子どもの反応	指導の手だて・留意点
導入	担任	8分	1 学習の見通しを持つ。 ・エイズに関する意識調査の結果を通して考えさせる。	・興味、関心を持つ ・楽しそうだな ・どんな勉強かな	学習課題をつかむ ・TP、プリントを提示
展開	養護教諭	30分	2 エイズについて知る。 ・エイズについて知りたいことを発表する。 ・科学的な知識を深める。 (1) エイズとは (2) エイズウィルスの性質 (3) 感染経路について (4) 症状について (5) どこにいるのか? (6) 予防法について	・どんな菌か ・どうしてうつるか ・必ず死ぬか? ・ふ～ん? ・強い菌だ! ・食べ物やプール ・赤いプツプツ ・血液の中にいる ・自分の物を使う	・実在する物語を使い実感に迫る。 (ライアン少年) ・科学的な知的理解を深める 絵図、TPを使う
まとめ	担任	7分	4 エイズの感染経路、症状予防法について正しく知り、患者への偏見を持たないようにする。	・よくわかった! ・家族に教えよう! ・お手紙を出してあげたい!	・実践目標を持たす。

(4) 評価

- ① 本時の学習で、エイズの感染経路・症状・予防法がわかり、健康生活を実践しようとする意欲が高まったか。

ようとする意欲が高まったか。

- ② 患者・感染者を正しく理解する心が芽ばえたか。

☆

学級活動学習指導案 ②

～エイズに関する指導～

平成5年2月1日(月)

5年3組 浅井利真
宮里春江

【題材名】 エイズの探検～どのようにしてうつるか～

【題材設定の理由】

エイズは現在、患者や感染者数が急増していること、若い世代の患者や感染者も増加していることから、重要な健康課題のひとつと

なっている。しかも、現在のところ、エイズについて理解することが唯一の予防薬といわれるだけに、エイズの感染経路について、科学的にわからせることが重要である。

【指導計画】

1時間目：エイズってどんな病気？

2時間目：うつりかた

【本時の学習】

- (1) 目標

エイズのうつりかたについてわからせる。

(2) 展開

	指導者	時間	学習内容・活動	子どもの反応	指導の手だて・留意点
導入	担任	10分	1 学習課題の提示 このグラフは、どこに向いていこう	<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん増えていく ・なぜ、ふえていくのか ・くいとめることはできないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてを持つことができるようにする <p>TPシート、グラフ</p>
展開	養護教諭	20分	2 移りかたについてどのようにして、体の中に入ってくるだろう 血液から 母から子へ(母子) 性交によるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・傷口から入る ・注射器からうつる ・ふ～ん、何かな(セックス…) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実在する物語を使い性交によるうつりかたがあることをきづかす。(アリソン・ガーツさんに学ぶこと) ・科学的な知的理解を深める <p>TPシート イラスト</p>
まとめ	担任	15分	3 エイズのうつりかたについて、学習したことを、ビデオを通して深める	<ul style="list-style-type: none"> ・よくわかった! ・ふだんの生活では、大丈夫だな ・気をつけよう! 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践目標をもたすビデオ ワークシート

(3) 評価

うつりかたがわかり、予防について実践しようとする意欲が高まったか。

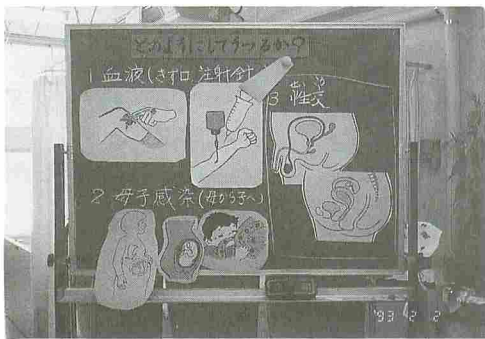
【結果と考察】

児童の学習意欲を高める手だてとして活用した科学的資料や指導内容等について、学習カードを通して検証していく。

【感性に訴える資料の活用】



【科学的資料の工夫】



- ・ ライアン・ホワイト少年の写真と、「エイズと戦った少年の記録」の本を提示することによって、エイズ患者・感染者の心情を理解し、自己の生活のあり方や、生き方の探求、学習への動機づけを図った。

写真を提示して、ライアン少年について、話し出すと、「サッ」と姿勢を立て直し、身をのり出さんばかりに聴いている。

児童の感動した様子が伝わり、教師とも授業の一体感が高まり、学習意欲を高める原動力になった。

- ・ エイズについて、科学的な知的理解を深めるためにイメージを広げる絵図や消毒薬等を提示・説明したり、ビデオ教材・新聞記事等を活用した。

絵図については、全体的に興味・関心を示し、特にエイズウィルスをイメージ化した「ばい菌」の絵には、「かわいい!」といったり、手に振れたりして、興味・関心の深さが伺えた。

また、消毒薬の効果について説明すると、「ほんとうに消毒薬に弱いのか」「な〜んだ、エイズウィルスって水やお湯に弱いのか」と、新たな認識が生まれ、正しい知識を獲得することができたようである。

性交感染を取り扱う場合においては、学級担任による性に関する指導「性交」について、OHPで科学的に指導した後に取り扱った。このことは、発達段階に応じた科学的な認識を深めさせる自己評価活動として、個人差は考えられるが、十分理解できる資料であったと考えている。

このように、科学的根拠に基づいた資料を提示・説明することによって、日常生活における行動や考えを振り返り、見通しを持って、生涯健康づくりの基礎的な能力・態度を培うことができると考えている。自らの健康生活を築いていけるような自己評価活動を高める手だてとして、適切な科学的資料だと考える。暗中模索の中で、創り出していく指導内容や教材開発にあたっては、学級担任の協力は不可欠である。

以上のように、学級担任と指導内容を分担して、授業を進めた。模擬授業を繰り返すなかで、授業設計や内容の選択について話し合い、指導内容を2回に分けて実施し、授業の完結をみた。

一時間目に、エイズのあらましを取扱い、二時

【指導内容の設定】

原簿の学習

氏名 稲福 絵里

タイトル **心と体の探検**

- 学習のめあて **「どうやたらうつるがどの部分に
してうつるか症状など」**
- 学習したことをメモしよう！

エイズ ^{（後天性免疫不全症候群）}
 ○ HIV の zoonotic らしいウイルス ^{（感染しない）}
 ○ 水、熱、消毒液に弱い } エイズウイルス
 ○ 白血球をねらいこわしてく } の性質
 ○ エイズウイルスはどこにいる？ 血液の中
 呼吸するには… 自分の血液は他人
 にふれさせない。自分から出てをする
 歯ブラシなどは自分だけで使う。
 エイズかんせん者
 は差別
 しない。



【自己評価カードの工夫】

エイズについていろいろわかった。
 図書館でこの本を見つけたのだが、あま
 しろくなさそうなので、ここにおいた。
 こんど見つけたら読みたいと思う。
 AIDS について、いろいろと勉強
 することができて、とてもよかったです。
 私も、最初は、ただ、AIDS にかか
 った人がさわった物を使ってうつる
 と思っていたのでそれだけでほうつ
 らないとしてほっとしました。
 AIDS になった人をさけるのは、
 AIDS になっている人にとっては、と
 てつらいと思います。
 私はできるだけ、さけるようなこ
 とはしないで、仲良くするつもりで
 す。
 今日は、本当にいい勉強
 になりました。

ありがとう
 ございました……。
 充実！… 充実！

間目には「性交」による感染経路まで触れた。性交による感染経路まで触れるためには、どうしても、性の指導との関連性があるため、理科「生命誕生」の指導後、「性交」についての指導を学級担任が実施した。

感染経路を二回に分けて実施したのは、変則的ではあるが、理科や性の指導との関連性を十分検討した上で、児童の実態に応じた指導の内容・機会・進め方を考えたからである。

その結果、前時の学習の振り返りや確認をしながら、科学的認識を深めることができたと考えている。また、血液感染、母子感染、性交による感染の三つの感染経路を1時間に納めることも可能であることがわかった。

- 提示した資料や説明等が、児童の科学的認識を深め、かつ自他の健康問題をどのようにとらえ、振り返り・目標を持って意欲的に健康づくりへ取り組もうとしているのか学習カードを通して検証していきたい。

K児の場合には、「エイズと闘った少年の記録」の本を読んでみたいと興味・関心を示している。

- 学習したことの要点をしっかりとメモしており、学習への取り組みの姿勢が伺える。また、「エイズの人さわった物を使っても移ると思っていたが、それだけでは、移らない」とわかったので、ほっとした等、新たな認識が生まれている。そして、エイズにかかった人を避けると辛いと思うので仲良くしたいと、エイズ患者・感染者を正しく理解しようとする気持ちも芽生えている。

「性交感染」についての理解は、個人差がみられ、4人の児童が、難しく、よくわからなかったと答えている。理解を深めるためには、学年段階に応じた性の指導を実施する必要があると考える。

一時間目には、移り方について、疑問を持ったり、もっと知りたいと思っている児童が、二時間目の学習を通して、よくわかったと感想を書いている。

- 「性交」の表現として「BF=ボーイフレンド」「アダムとイブ」「異性間接触」等、予想を越えた言葉を知っていることには驚かされた。
- 高学年の段階で、「性交感染」まで触れることは、生命の大切さ、健康の喜びを育む自然な姿として大切であると考えている。

エイズの探検で思ったことは、エイズは、とても大変な病気。この上、ウイルスを消すことのできないということを知りました。エイズウイルスは血液感染や母子感染や性交感染の三つ方法から伝わり始めるということが分かりました。でも今日の授業はとてもむずかしく、意味の分からない所もありました。だからもうちょっと簡単にしてほしいなと思いました。



<授業評価>

- 授業の振り返りを、「線結び内容分析」の評価方法で検討してみる。

得点の高い評価内容は、「説明がやさしかったのでよかった」「絵やOHPを使うことが多かったのでよかった」、「二人の授業の進め方がおもしろかったのでやる気が出てきた」「二人の授業の進め方がわかりやすかったので満足だった」と、学級担任との協力授業が、保健学習の自己評価活動を活性化する手だてに成り得ていることを実感した。

<父母の感想>

6年生の学級で、授業参観した父母から、次のようなコメントが寄せられた。今後のエイズに関する指導」に役立てていきたい。

普段の生活には、関係ないと思っていたが、もっと、身近なこととして、子どもと話し合ってみます。

- 小学生には、エイズはなぜ起こるのか、むづかしいかもしれない。特に感染経路「セックス」については？でも、先生が、一生懸命わからせようと教えているのには感激しました。
- とても分かりやすく、私自身、勉強になりました。
- 自分も知らないことが多かったので、大変良かった。
- 一回のメニューでは、多すぎると思います。二回位に分けて実施した方がよいのでは？
- 今、社会問題になっている「エイズ」について、子どもと一緒に学びました。無知からくるエイズ患者・感染者への差別についても、私たちは今一度考え学ばなければなりません。これを機会に性教育のあり方についても家庭で子どもと一緒に話し合わなければならないと痛感しました。

3 「授業記録」とその分析

近藤^①は、追試に耐える「保健授業のスタンダードナンバー」を創出するための“シナリオ”としての「授業記録」を提唱し、すでに、いくつかの教材「シナリオ+演出」型授業記録^②を報告している。本稿は、スタンダードナンバーづくりの準備のための前段階としての「授業記録」である。

(1) T-C型授業記録

(中途略)

T はい思いだして下さいね。

T はいわかった人？手を挙げて、思いだした人、あ～そうだったか～(手をあげて～)(わかった生徒手をあげる)

T さ～エイズウィールスはここにいますよ(担任OHP準備)

T 髪をといて傷がついて出た血液ね。それから、髭を剃って出た血液ね。歯を磨いたときに出血ね。(この間担任がOHPの絵をさす)これも血液です。それから、母乳、お乳です。お母さんからお腹の中の赤ちゃんへ、そこにもエイズウィールスがいるんですよ。そして、男の子は、(OHPをさしながら)、なんて書いてありますか？

T はい読める人？

C 精液

T そうです精液(板書)ね。精液の中にいます。はい、では月経中の血液(何故子供に聞かなかったのか？)(板書しながら)精液、月経、そして、私たち全身を回っている血液そういうところにエイズウィールスは住んでいるんだね。健康な人の身体の中にはエイズウィールスはいないのね。(黒板をさしながら)エイズウィールスにかかった人の体に住んでいるところは、血液、白血球の中はもちろんのこと、精液の中、月経の血の中、に住んでいるわけだね。

T では、このエイズウィールスはどういふふうに入ってくるんだ？はい、C2さん

C2 傷口に

T 血液を通して傷口から入ってくる(板書しながら)

どのようにして体の中に入ってくるか。これは同じようにどのようにしてうつるかということね(黒板に傷口の絵を貼って)、それをさしながら傷口を通してエ

イズウィールスが入ってきます。かかっている人のエイズウィールスが傷口から出ていって、健康な人の、もし、手に傷があるときには、この傷口を通してエイズウィールスがうつっていくわけです。

T その次、何が？(手をあげることをジェスチャーで指示している)

はい、C3くん

C3 その人の物を他の人が使ったとき

T うん。エイズにかかっている人が使った物、歯ブラシとか、くし、そのようなものを通してうつっていく。

T さ～、もっと？(手をあげることをジェスチャーで指示する)

はい、C4さん。

C4 血をもらう。

T そうです。エイズウィールスにかかっている人から血をもらったときね。(注射器の絵を貼りながら)血液を通してエイズウィールスが体の中へ入っていく場合があります。しかし、この血液は現在日本では、エイズウィールスが入っているかないかを相当厳しくチェックされて現在ではエイズウィールスが入っている輸血はありませんので安心して輸血を受けることができます。

その他、注射器を通してね。注射器の中に血液が入って行って、この注射器を他の人が使ったときに、血管の中にエイズウィールスが入ってきます。注射器を通してエイズウィールスが体の中に入っていく。あと、このうつり方ですがあと二つあります。もう一つはわかる人(発問の工夫が必要)？血液を通して感染していく。(板書しながら)一番目、血液感染だね。他にどのようなうつりかたがあるかな？(子どもたちを見回しながら)お母さんのお腹を通してね。(絵を貼る)お腹の中に赤ちゃんがいるときに、うつっていきます。これを「母子感染」といいます。(板書)

お母さんが知らない内にエイズウィール

スがはいっちゃっているけど、お母さんが妊娠して、赤ちゃんが育ってしまった。そういう時に、この赤ちゃんはお母さんのお腹の胎盤というものを通してエイズウィルスが感染していきます。うつっていきます。お母さん知らない内にエイズウィルスにかかってお腹の中に赤ちゃんができたときに、エイズウィルスが赤ちゃんの中まで感染してうつってしまいます。これが全部うつっていくかというところではなくて、半分ぐらいはうつっていくであろうと言われています。そして、赤ちゃんが生まれたときに、お母さんのおっぱいからもエイズウィルスがうつっていきます。お乳を通してうつっていきます。

3番目に考えられることは、何だろう？ どういううつり方があるかな？（発問としてどうか。この前に説明が必要ではないか）グラフはね、どのようにしてエイズ患者や感染者が急激に増えていったかその大きな原因がこの3番目に（板書しながら）あります。（ここで子どもが答をだすまでの間が必要ではないか）

（ジェスチャーで手をあげるように指示する。）わかる人？ どういうことでうつっていくのかな？ どういうことでこんなにエイズ患者や感染者が増えていくのかな？ 怪我を通して増えていきますか？ 怪我だけでこんなに急激に増えていくのかな？ お母さんのお腹の中で育っている赤ちゃんね、それによって急に増えていくのかな？ じゃ～もう一つ見てみよう。これを考え出すためにね。エイズウィルスはね普段の生活ではうつらなかったでしょう。もう一度みようね。

ヒント①です。

普通の生活ではうつらないということだ。じゃ～先生説明をお願いしますね。（学級担任がOHPで確認のため説明する）

T（学級担任）これはこの間のOHPですね。まずは、一緒に働いたり食事をして

はうつらないこれはいいですね。（OHPの絵を消去法で確認しながら1つ1つ消していく）それから血でもうつらない。インフルエンザが流行していますが、せきやくしゃみでもうつらない。エイズウィルスは弱いですからこれでも感染しない。蚊やのみからももちろんうつりません。軽いキスでもうつりません。日本人はキスをする習慣はないですね。あいさつの時ね。海外に行ったときに、挨拶代わりにキスでもうつらない。様式トイレの便座（様式トイレの家、手をあげてください。多いですね。最近はどこへ行っても様式トイレが多いですね。）それでもうつらない。電車の中の、バスの中の吊革でもうつらない。献血、輸血でもうつらない。先ほどの春江先生のお話で輸血からうつるという話がありましたけど、日本の中ではほとんどうつらない。100%と書いていいほどうつらない。ただし、皆さんが海外に仕事に出かけて行って、交通事故に逢って輸血をした場合には危ないかも知れない。海外という場合には特に開発途上国の場合は危ないです。輸血をチェックするというのは非常にお金がかかります。日本だからできるのであって、この辺は気をつけた方がいい。ほとんどこれだとうつらないということを考えて下さい。（OHP全体を指して）そうすると、はい前見てごらん、春江先生が説明しましたが（今度は黒板の方を指して）、この3つではうつらない。母子感染はうつらない。傷の手当ではほとんどうつらない。まずうつらない。それから、輸血も心配ない。では何故あんなに急激に増えているんだろう？ どうしてか？ ということです。何が考えられる？ 予想でいいですよ。意見ありませんか。

～したらどうする。はい、どうぞ意見！ 考えて想像つかないという人手をあげて、全くつかないという人（かなりの子どもが手をあげる）

- (実態は違うなと先生)
では、資料(養護教諭へ引き継ぐ)
- T はい、では先生がヒントをだします。アジソン・ガーツさんの話です。アジソン・ガーツさんに学ぶこと、これはアメリカの話です。(ここで文章教材を読む:途中略)
- T さあ、そこから(文章の中から)アジソン・ガーツさんがどうしてエイズにかかっていたのかな? どうしてガーツさんの体にエイズウィールスが入っていったのかな? はい(手を上げるようジェスチャーで指示しながら)さあ、(手をあげない)、勇気を出して、「こんなこと言ったら笑われる」「こんなこと言ったら何とか何とか言う」… はい、自分の考えていることを言って…、
(ここで学級担任)
- T (学級担任) だいたい想像はつくってという人は手を上げてごらん、想像がつくという人は、…。
今の話、(ちょっと時間あるかな)まだ、わからないという人?(挙手を要求)、どうもピンとこないみたいですね。ちょっと難しいところだったかな。(OHPは予定にないんですが)(この後OHPで確認する)
- T (学級担任) エイズウィールスはここにいうことでだいたい理解できたと思いますので、では、さっと見ていきます(黒板を指しながら1から2、3、傷口の感染、輸血の感染、母子感染でどれが、どれなのかを言っていきます。)
(OHPで確認する形で)
髪をとかした時に傷がついていて出血する、人のブラシなどを借りた場合、これは(黒板の1~3の)どれにあたりますか?
- C 血液
- T 血液だけど、傷口か、輸血か、母子感染か、どれ?
- C 傷口
- T 傷口だな(OHPのそれぞれの箇所を伏せていく)、これ(ブラシなど)使わなければいいですね。次、歯を磨いたときにでた出血、例えば人の歯ブラシを借りた場合は、傷口か、母子感染か、輸血か、どれですか?
- C 傷口
- T これも傷口だね。ではこれも使わなければいい(OHPの伏せてあった物を除きながら)次、赤ちゃんの母乳、お母さんの母乳を赤ちゃんが吸った場合感染するのは何感染?
- C 「母子感染」
- T 母子感染、そうするとこれも除外される。髭剃ったときに出血を、皆さんは髭剃ることはないですけど、先生なんかはよくやるからね。ときどき失敗する。この髭剃りを使った場合はどうなる? 何感染?
- C 血液
- T 何感染ですか?
- C 血液
- T 血液だけど、ごめんなさい、どんなやっが入ってくるか? どのように入ってくるか? 何?
- C 傷口
- T 傷口だな。これも傷口
お母さんのお腹の中に赤ちゃんがいて、その赤ちゃんがうつるという場合にはどれですか?
- C 母子感染
- T 母子感染ね。そうすると残っているのは次、男性の精液ですけど、精液は何かから作られるんだ? 精子がいいね、精子はどこにいるの?
- C 精巣
- T 精巣、男性の精巣だな。では、女性の生理中の血液、赤ちゃんの生まれるときだな、精子と何が結合しないといけないんですか?
- C 卵子
- T 卵子はどこにある?
- C 卵巣
- T 卵巣だな。そうすると、月経中の血液というのは、生理中の血液だから、女性のからだの中にあるな。この辺は(OHPを指して)精液から生理中の血液へうつるのがあ

の中(黒板の1~3を指して)にありますか?あの中(傷口感染と、母子感染と輸血の中)にありますか?

C ない

T あるか、ないか

C ない

T ないな、そうするとどうやらこの辺に(OHPを指して)うつるものがありそうですね。では、聞きます男性の精子と、精巣の中の精子と女性の卵巣の中の卵子が結合する場合、何って言った?理科で、

C 受精

T 受精だな。(この間)こういうことをするのは何ということだった?こういう行為をするのを何って言った?

(ここまで学級担任)

C は?

(質問がわるいかな?:学級担任)

T (養護教諭)精子と卵子が…

T (学級担任)結合するのは受精と言いましたね。だって~、じゃ~、ほら、離れていては(OHPを指しながら)結合できないだろう。そのためには側に寄らないといけないでしょう。側に寄らないといけないでしょう?離れていては結合できない。あなたたちは、受精、精子と卵子が結合できたから生きている。こういうのを何という行為と言いましたか?わからない?(余計に難しくしている)

T (養護教諭)精子と卵子が一緒に結びつくよね、一緒に結びつく時には、どのように結びつくの?(この発問によってさらに焦点が…?)精子と卵子が、ほら、これを見て浅井先生はこれ(OHP)を説明したでしょう。絵に代えたことだけのことでですけど、ここで膣、子宮です。膣、子宮、この膣の中に精子が入っていくんですよ。精子が入っていく、膣の中に、結びつくためにこの精子が卵子のところへ、泳いでいきます。その時には、どのようにして、女の人の膣の中に精子が泳いで入っていくかという(ペニスとワギナの絵を黒板に貼る)、

これ女の人の子宮、これが膣、そして男の人のこれは何でした(ペニスを指して)?ペニスだったでしょう(板書)。この前習いましたでしょう。

「性交」の勉強したときにね。ペニス、これは子宮膣、(絵を指して)このペニスが膣の中に入って行って、そこから卵子(精子の間違いであろう)が泳いでいきます。それを何て言いました?

C 授精

T 授精ね。授精する。授精することを(黒板の口に性行為と書きながら)性行為、ということを知りましたでしょう。(前もって学習している)土曜日に、どうですか、あは~、そう、女の人の体の中に、体のなかって膣の中に、精子が、男の人のペニスから出た精子が泳いでいく、そして、合体する、結合する。それを授精と言いますが、授精すること、それを「性行為」と言いますね。

だから、このエイズウィルスは二つの他に、もう一つ「性行為による感染」(板書)があるわけなんですよ。

このペニスの中いっぱい、いっぱいエイズウィルスが入っているんですよ。健康な人ではなく、エイズウィルスに感染した人の場合ですよ。体の中に入り込んだ時には、この男の人のペニス、精液ですよ。精液の中にもいっぱいエイズウィルスが入っているんです。そして、女の人の場合もエイズウィルスが体の中に入り込んだときには、男の人より少しは少ないけれど、だいたい同じくらいこの月経の中、膣の中にもエイズウィルスがいっぱい入っています。

だから、性行為をする場合は、このエイズウィルスが体の中に入り込む危険が高いわけなんですよ。血管の中よりは人間の体の中でエイズウィルスがいちばん住み安い所、生きられるところ、それは精液、膣の中ということなんですよ。エイズウィルスが私たちの体の中にど

のようにして入ってくるかということ、「血液感染」、「母子感染」、3つ目に、「性行為による感染」なんです。

今、最も増え続けている原因は、「性行為による感染」が一番の原因だということなんです。

T (学級担任) だいたい今日、何を話したかは理解できたと思います。必要な言葉だけメモして下さい。その間にVTRを準備します。自分が知った言葉、大事だと思ったことをメモして下さい。

C (この間、整理している)

T (養護教諭) 浅井先生がVTRを準備する間一生懸命書いて下さい。あと一つ一緒に勉強したいのがあります。

T (学級担任) では、6分ぐらいだと思います。この間のまとめをVTRでやります。どういうふうにしてうつるかということ、こんなことではうつりませんということを、まず正しい知識を知って下さい。偏見があるとライオン君が言ったように不幸になりますよね。そして、こういうことではまずいな、予防ということを考えてみたいと思います。

(パーツさん一家のVTR)

T では、算数の授業ではありませんがめあてに沿って自分の絵でまとめをしてもらえん。

(机間巡視)

T C君

C ハンカチやタオルではうつらない。

T 書いたこと全部

C 一番、エイズにかかるとは「性行為による感染」がわかりやすい。

T OK、ではCさん

C どのようにうつるか3つの方法がある。血液感染、母子感染、性行為感染がある。今、一番増えているのは性行為感染が増えている。普通の生活ではうつることはないのですか？

T 大丈夫ですね。普通の生活をしているとうつらないということですね。予防とし

て、エイズについてはこれからの勉強だと思います。5年生で終わりではない。6年生でも、中学生になっても、高校でも習う。一生つきあわないといけない。皆さんはある程度の知識を知っていますから、正しい生活をすればいいということ、もう一つは、エイズにかかった人でも住み安い町づくりふれあいですね。これができるようにならないといけない。今日は、ちょっと難しかったかも知れませんが、まとめと内容分析をやってから終わります。

(2) 分析－「性行為感染」をめぐる

本実践は、小学校において県内では初めてと思われる「感染経路としての性交」を扱った興味ある実践である。小学校でのエイズ実践自体県内では初めてであったように思われる。エイズを語ろうとすると「性交」「コンドーム」「同性愛」などといった扱いにくい部分が目について尻込みしがちになる。特に小学校におけるエイズ教育ではなおさらのことである。そこでここでは「性行為による感染」の部分での本時の展開に限定して分析を試みた。

さて、本実践では「性行為感染」に関わって、エイズの感染経路としての「性行為」を子ども達から引き出すのにかなりの時間を要している(実際には、最終的に教師が答える形をとる)のが授業記録からよみとれる。また、授業の展開も血液感染・母子感染の部分とは子供との対応(教授行為:発問、説明など)でも違いがみられる。何故に、「性行為」という言葉を引き出すのに時間がかかり、文章教材(アジソンガーツ)やTP教材(うつる・うつらない)を用いての説明が必要だったのであろうか。

このような授業展開を起こさせた1つの原因は、教師の教材観・性教育観であり、教師のセクシャリティーとの関連があったように思われる。確かに「性行為」の言葉を引き出すのに「感染経路」の部分に大半の時間を費す。この部分に教師の葛藤がみえる気がする。感染者数

の拡がりの最大の原因がこの性行為感染（とくに、異性間接触）であり、20代・10代に波及してきているという教師の問題意識は、指導案にもあるように「教え子からエイズ患者、感染者をだすな」の願いへと発展し、これまで躊躇していた「性交」についても扱うことになる。

この時間で教師が意図した教育内容は、エイズの感染経路としての ① 血液感染 ② 母子感染、そして、授業の山場である ③ 性交もしくは性行為による感染であった。

しかし、子ども達からの答えを引き出すためにかなりの時間を要し、途中、あたかも「性交」もしくは「性行為」そのものが教える中味であったかのような錯覚を起こすぐらい、「性交・性行為」が自己目的化してしまっている。（授業記録参照）

このように「性行為もしくは性交」の言葉を引き出すのに12分余り要した原因のもう一つは、教師の子どもが恥ずかしくて答え難いだろうという思い込みとそれに付随する一連の教授行為にあるように思う。つまり、文章教材（アジソンガーツ）やTP教材（うつる・うつらない）で説明する前後で何度も同様の発問を投げかけているのであるが、教師の方で子どもの反応を待ちきれない（間をとる）状況が多々みられるのである。むしろ、ここでの教授行為（確認の発問の連続）は、子どもの思考を分散し、余計に難しくしてしまったのではないかと考えられる。もしこの部分で子ども達からの“性交・性行為”の解答を望むのであれば、「教授行為のサイクルと定石」⁶⁴である「発問→ノート作業→机間巡視→発表」の方法やむしろこの実践でみられる「投げかけの発問」とどめていた方がよかったのではないだろうか。教師の発言にもあるように「こんなこといったらはずかしい」とか「こんなこと言ったら何とか、何とか」といって余計に恥ずかしさを煽って発表を促すようなこともなかったと思われる。途中の子ども達の対応や最終的に4人の子どもの発言（感想）に見られるように、この後の展開は、さらに難しさを増してしまっただけの感がある。

ところで、この「性交感染」の部分は「これ

までの性教育」、「これからの性教育」が問われていると同時に教師のセクシャリティーが問われている部分でもある。特に、今回あえて挑戦したという意味で重要な提起をした実践として評価できる。村瀬⁶⁵が言うように「小学校段階での性教育では“性交”を扱うか扱わないかをこだわっていたのでは少しも進まない」のも事実であるし、同様な議論に終始しているとたまたまや過去の“寝た子を覚ますな性教育”論争と同一レベルに留まり、いずれは性教育もエイズ教育も衰退する方向を歩むとも限らない。多くの小学校における性交を扱ったエイズ実践は「授業をしてみれば、そんな特別なことでもない。受けている子ども達もそうだし」⁶⁶と報告していることに、注目し、「基本的には子どもを信頼し、知識に確信をもつことが重要でしょう。きちっとした知識を身につけることが自らの行動を慎重にし、相手を思いやり、性的に自立した生き方のベースになるのだ、ということに確信を持つべきだと思うのです。性教育に学力の視点をあてるのは、そうした確信のある認識を追求するためなのです」⁶⁷というように、性行為を教えることが「性行為を容認する、助長する」ということではなく、むしろ性的に自立した生き方のベースに位置づくことなのであるということをここで確認しておきたい。

4 まとめにかえて

本実践は、小学校におけるエイズの授業として、また、「感染経路としての性交」を小学校において扱ったことも県内ではじめてのものであり、先駆的、モデル的実践として評価される。確かに授業記録にみられるように「性交」の部分での展開に若干の戸惑いがみられたものの、しかしそのことよりも実践の第一歩を踏んだことが重要であるように思う。性教育自体が教師の「セクシャリティー」が問われてくる。そこに性教育やエイズ教育の難しさがあるかも知れない。しかし、それを乗り越えなければたまたまや性教育（エイズ教育）の停滞につながりかねない。そのためにも、すぐに取り出せる「保健

(エイズ、性)指導のスタンダードナンバーづくり」が急務である。

参考文献

- (1) 近藤真庸：「保健の授業記録論」、体育科教育、40 (9)、1992、8
- (2) 森 昭三：「性教育時代に果たすべき養教諭の役割」、健康教室、44 (3)、1993、2
- (3) 近藤真庸：「学校健康教育と養護教諭の役割」、体育科教育、40 (12)、1992、10
- (4) 藤岡信勝：「ストップモーション方式による授業研究の方法」、学事出版、1991
- (5) 村瀬幸治：「エイズは性教育をどう変えるか」、体育科教育、41 (3)、1993、2
- (6) 末友雅子：「エイズ教育一つの試み」、体育科教育、41 (3)、1993、2
- (7) 数見隆生：「『性の学力形成』と養護教諭の役割」、健康教室、44 (3)、1993、2